

## 細江カトリック教会だより

7月

〒750-0016 下関市細江町1-9-15

☎083-222-2294

☎083-222-0970

ホームページ <http://hosoechurch.sakura.ne.jp>

## 屋根の上で言い広めよ

梅雨のうっとうしい時期が続きますが、お気づきでしょうか。細江教会の聖堂には切れかけた天井の照明に代わって、明るいLEDのライトが取り付けられました。ミサにあずかる気持ちも、ずっと明るくなることでしょう。

「あなたがたが耳もとで聞いたことを、屋根の上で言い広めなさい」。これはマタイ福音書に、弟子たちを宣教に遣わしたときの主の言葉として伝えられています(10・27)。福音書の著者は、この言葉に自分たちの教会の状況を重ねあわせて、かつて弟子たちがわずかな聴衆とともに主から聞いた神の国の福音を、今は教会が世界中の人々に告げる使命を受けているのだ、と自覚していました。

さて、日本の教会はどうでしょうか。信徒数は1980年頃から停滞期に入り、2000年頃からは衰退期に入ったと言われます。その理由はいろいろあっても、やはり現在の教会に十分な宣教の使命意識が欠如していることが根本的なのでしょう。信徒たちは教会での奉仕活動にはけっこう熱心なのですが、宣教のために献身している姿はあまり見られません(英隆一朗『希望の光』第4章「日本の教会に将来はあるか」参照)。

第二バチカン公会議は、教会が神の国のしるしであり、道具である、と宣言しました。「しるし」とは、目に見える姿を通して神の恵みを指し示すとい

う意味です。「道具」とは、それを使って神さまが救いのわざをなさるという意味です。「しるし」はどんなに小さくても、ちょうどローソクの小さな光が闇の中では遠くからも見えるように、情熱さえあれば世の人々に神の恵みを指し示すことができます。また「道具」はどんなに弱く、粗末なものでも、神さまに使っていただければ、世界に救いのわざを行うことができます。



神の国は傷ついた世界の癒しと、分断された人類共同体の和解と一致をもたらします。それは私たちの努力でなし遂げられるものではなく、あくまでも神さまのなさる創造のわざです。だからこそ、現代世界の現状がどれほど悲惨に見えても、私たちは落胆しません。主イエス・キリストの復活を通して、神

ご自身がそれを約束しておられるからです。同時に、私たちの奉仕がどれほど微々たるものであっても、私たちはあきらめません。私たちの奉仕を道具として使って、神ご自身が働かれるからです。

教皇フランシスコは『福音の喜び』の中で勧めておられます。福音宣教のためには、むずかしい教えを人に語る必要はありません。単純に自分が救われた体験、神の愛に出会った体験、生き方を変えられた体験を人々と分かちあえばいいのです、と。

信徒が福音宣教の熱意に目覚めたとき、教会の再生の時がくるのでしょうか。

百瀬 文晃 神父

## 地区だより IV

## 山の田地区

本年度、教区の年間テーマは「教会へのチャレンジ(祭司職・典礼)」とされ、私たち共同体は、この課題に取り組むことになりました。

チャレンジ＝日本語では挑戦ですが、昭和・桁世代で、近頃心身の衰退を自覚する身にとって、挑戦という字面からは、ある種の猛々しさが感じられて、何となくひるんでしまいます。

代わって英語でチャレンジといわれると、やさしくはないが、やりがいのある仕事を、何とかやり遂げなければと奮い立つ、ポジティブな気分になって勇気が湧いてきたのです。特にサブテーマである“祈る使命”は、体力のない私などにはびったりの命題です。

聖書の勉強をした学生時代、心臓をわしづかみにされたような御言葉に出会いました。それは十字架に釘づけされたイエス様が、ご自分をいたぶる人々を御父にとりなして、「父よ、彼らを赦し給え。その為す所を知らざればなり」(ルカ 23-34)と仰せになった福音の箇所です。

その後 70 余年を生きて、時に気持ちが悪く生きて生きる気力を失くしたり、失望と怒りにさいなまれたときなど、この御言葉によって、暗い淵から救われてきました。迷い多い私ですが、十字架の主を祈る日課は、受洗以来 58 年、何とか続けてまいりました。

十字架上のキリストは、人類の贖罪と救霊、私たちキリスト者にとって、救い主イエス様の究極のシンボルです。私も生ある限り、身の丈にあったチャレンジ精神をもって、祈りを捧げたいと決心しています。どうか聖霊のお導きがありますように。

森 正子



## リーダーシップ研修会 6/17 (土)

## -聖イグナチオに学ぶリーダーシップ-



教会の活性化のために、信徒のリーダーとして司祭やシスターに、いかに協力できるか、それをどのようにして取り組むのか、というテーマで、李聖一神父様の貴重な講話でした。

著作の『神の指ここにあり』から、リーダーの資質として、

：識別： 社会において、さまざまな出来事をも識別すること。

：分別ある愛： 愛は大切だが、行き過ぎた「愛」を戒めること。

：大いなる望みを引き出す： 共に働くものに対して「ああしたい」「こうしたい」という思いを抱かせること。

：一人ひとりの世話をする：「この人」に対して今、何が必要で大切なのか、配慮し心を砕くこと。

：使徒職に対する世話・配慮： 「一人ひとりの世話」と同時に、使徒職や共同体のあり方を世話すること、など。

「これからの共同体として生き残るためには、単なる信心グループではなく、何かができるグループを目指さなければならない。キリシタン時代、たとえ神父がいなくても 250 年も続いた信仰、日本人の底力を感じる。これからは、神父やシスターとよくコミュニケーションをとり、何かを変えようという意識を大切に、活動の目安として歩んでください」という言葉が印象に残りました。私たち一人ひとりが与えられた使命や役割を自覚して、人々に奉仕することができますように。

近藤 豊之

## 社会教説 6/18 (日)

\*スライドで説明をする中井神父さま。暗幕で薄暗いホールでしたが、熱意が伝わってきました。



6月18日、久しぶりに中井神父さまの社会教説でした。神父さまの回心の体験を通して、イエス・キリストを信じる私たちが、東アジアの和解のためにどんな使命を持っているか、というタイトルでお話してくださいました。

下関には朝鮮学校、コリアンタウンがあり、在日の方も多くいらっしゃいます。負の歴史もあります。その負の歴史を見ない、説明しない、消し去ろうという歴史観もあります。

もともと傷つく心というのは正常な心なのに、私たちは人を傷つけながら、自分は傷つかない社会を作ってきてしまいました。弱い人、力のない人がますます傷ついています。

イエスさまは、私たちのために傷つき、罪をあがなってくださいました。私たちと傷を共にしてくださるイエスさま。イエスさまの傷は全ての人の傷です。その傷に触れ、共に傷つくものになる、傷を共感することで癒していく。国家というアイデンティティから離れ、相手を理解しようとする、相手の視点から物事をみる。それが東アジアの和解につながっていく。

イエスさまは、あなたの傷をかかえて、私についてきなさいとおっしゃいます。

私たちは今、難しい現実に向き合っていますが、凝り固まった偏狭なアイデンティティから解放され、異なった考えや文化をそのまま受け止め、愛の力

で、赦す力で、他者を抱擁する力で、相手をどこまでも理解する力で、この世界を平和の世界へ変容させていくことができますように。

社会教説担当 林 裕子



## 「山口島根地区信者養成講座」

## 「キリストを学ぶ」

講師は百瀬文晃神父様です。年6回12講話が細江教会で始まっています。

- ・イエス・キリストの人格と思想をしっかり学びなおすこと、
- ・聖書の読み方を身につけること、
- ・信仰と生活を統合すること

を目指して一日2講話。加えて、講話ごとの「分かち合い」が本年度の特徴です。初回第1講話後「イエスの洗礼の出来事から、私たちは何を学ぶか」を分かちあいました。自分の洗礼を思い起こし、意味を問い直したり、自分の使命は何であるかと新しく向き直したりすることができました。グループでの飾らない話し合いが講話の実りをもたらしてくれます。第3講話後の「いわゆる奇跡と呼ばれる現象をどのように理解すべきか」の分かち合いも盛り上がりました。第4講話後の「イエスの罪びとたちとの食事は私たちに何を呼びかけているか」で話題になった疑問を最後の全体会で質問し、納得しあって理解を深めました。

次回第5講話の後「イエスの祈る姿は、今日の私たちに何を教えているか」を分かち合います。司教様が提示された「祈る使命」をどこまで自覚できるか、楽しみです。

菊野 清一







## 一粒会について

この度「教会便り」の紙面をお借りし説明の機会を得ましたので、既にご存じの事とは思いますが、改めて当会の主旨や活動について記すこととします。

当会は広島司教区において1988年に、司祭・終身助祭の召し出しと養成のために祈り、また経済的援助をすることを目的とし発足いたしました。活動：5つの内容に絞られます。①神学生養成支援②外国から来る司祭、神学生候補者の日本語学習支援③終身助祭の養成支援④海外小神学校への援助⑤司祭・終身助祭の研修援助、以上が主な活動内容です。

会員（信徒）のつとめ：前述の活動を支援するため信徒としてのつとめは、①司祭の召命のため、毎日1回主の祈りを祈る。または、ヨハネ・パウロ二世の「召命の祈り」を祈る。②毎月、一口100円以上の会費（献金）をおさめる③一粒会の活動に積極的に参加する。（毎月一度、召命のためにミサを捧げる）など。

細江教会の皆様の支援の現況：毎年、多少の増減はあるものの、略100名位の会員と40～45万円の献金がなされており、この数字は広島教区の中でも優秀な数字として評価されています。改めて皆様のご協力に感謝申し上げます。

なお、ご参考までに、ヨハネ・パウロ二世の「召命の祈り」を聖堂入口においておきますので、お祈りの一助になさってください。

一粒会委員 玉井 絢一

## 幼稚園の行事

☆6/24（土）園庭周辺清掃



\*トアン神学生の力強い働きで、うっそうとしていた斜面が見通しよくなりました。お手伝いの方々に感謝。階段周辺の草は根が大きく育って、生命の凄さを感じました。

☆6/27（火）プール開き



\*百瀬神父様の祝福でプール開き。水しぶきを浴び歓声をあげる園児。



## 行事のお知らせ

教会学校お泊り会  
7/29（土）～7/30（日）



～わたしたちと  
いっしょに  
おとまりください～

場所；労働教育センター  
日和山公園でとびっきり楽しい企画を用意してます。  
ちびっこたち、集まれ！！